

経営者インタビュー①

～人材育成、職業訓練に関する”ホンネ”を聞く～

このコーナーは、多摩地域の中小企業の経営者の方々に、人材確保・人材育成の視点から、職業能力開発センターで実施している職業訓練をどうとらえているなどについてインタビューし、その一部を紹介するものです。

第1回目は、光工業株式会社の西崎慎二社長に登場いただきました。

光工業株式会社

所在地：八王子市石川町2968-3 設立：昭和25年5月

事業内容：金属塗装 従業員数：95名

会社HP：<http://www.hikarikogyo.co.jp/index.html>



Q1 まず、社長の「職業訓練」に対するイメージについてお聞かせください

訓練の修了生は、就職に対する心構え、職業人としての心構え、仕事に対する心構えが身についていると思う。

入社して短期で辞めてしまうのはお互いにとって不幸であり、できれば骨を埋める覚悟で入ってほしいが、訓練の修了生は、現場にすんなり入って、働くという意識があり、会社への定着率は高いのではないかと感じている。

Q2 訓練を経由して就職しようとする、科目によっては1～2年程度の時間がかかります。そのメリットはあるでしょうか？

就職するまでの充電期間と考えればいいのでは。入社時に1～2年の時間的な差ができて、入ってから2、3年もあれば挽回できる。

就職すると、ガツガツした職人集団の中で生活することになるので、1～2年間、精神的に鍛えられるのはいいことだと思う。

Q3 実際に貴社で働いている修了生たちはどのような感じですか？

見た目はおとなしいが、ガツガツしている。技術のベースがあることに加え、意識が高く意欲的。早く即戦力になりたいと思っている。

企業としても伸ばせる部分は伸ばしたいと思っており、もっと仕事をやりたい、やりたいのにやらせてもらえないオーラが感じられたので、お客様の現場への派遣をはじめ、多くの経験を積ませている。その中で揉まれて成長している。企業としても育てる努力を惜しまない。

Q4 これから訓練を受けてみようという人に向けて、エールをお願いします

訓練を受講する1年間は短い。すぐ取り返せる。決して足踏みではない。ストレートに漠然と就職するより、この1年間によって、次の20～30年が充実したものになるはず。仲間とライバル心を持って過ごすと意欲が高まる。ぜひ、職業訓練のルートを経由して入社してほしい。1年遅れてもデメリットなどない。かえって有利になるはず。

Q5 最後に、人材育成についての社長のお考えをお聞かせください

社員の意欲に応えるべく、高めの球を投げている。教える環境を整えている。やる気を持続するように、その人のレベルよりちょっと上の仕事を与えている。会社側のやり方次第で、社員の目的意識を高めることができると思う。

西崎社長、ありがとうございました！